

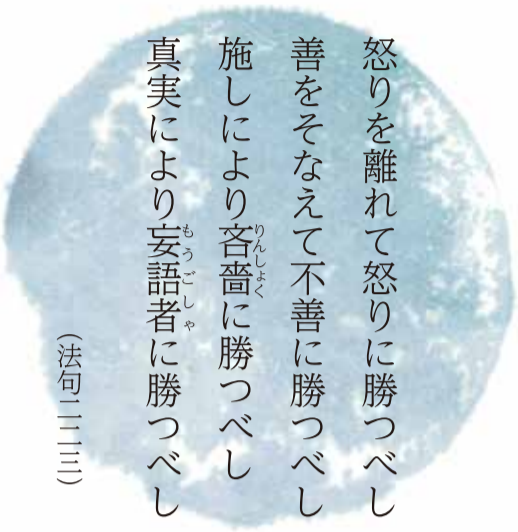
広徳寺通信

Letter from Koutokuji Temple

69号

は「このシリマーさんのお陰で私はお
 釈迦様に布施することも、法を聞くこ
 ともできた。もし私に怒りがあれば、
 このバターは私を焼くがいい。そうで
 なければ私を焼かぬように」と、ウツ
 タラーはシリマーに慈しみの心を広げ
 たのです。すると、沸騰していたバター
 は水のように冷たくなりました。それ
 でもシリマーの怒りは収まらず、再び
 沸騰したバターを持ってきます。それ
 を見た人々はシリマーを捕まえ打ちつ
 けようとしました。それをウツタラー
 は止め、シリマーを優しく介抱したと

忍耐と、さらには自分ことのように
 相手を思いやる慈しみの心でしか、
 嫉妬や怒り、恨みから離れることは
 できない。お釈迦様のお示しです。



怒りを離れて怒りに勝つべし
 善をそなえて不善に勝つべし
 施しにより吝嗇に勝つべし
 真実により妄語者に勝つべし

(法句二二三)

いうことです。お釈迦様はウツタラー
 の行いを聞いて、ウツタラーを称賛し
 「怒りはそのようにして打ち勝つのがよ
 い」と説きました。

お釈迦様が竹林精舎に住ん
 でおられたときにウツタ
 ラー信女に説いた言葉で
 す。ウツタラーはお釈迦様
 の法を聞き食事の布施をす
 るために、シリマーとい
 う女性に頼み、自分の夫の世
 話をお願いしました。しか
 し、とあることでシリマー
 は勘違いからウツタラーに
 嫉妬をし、ついには逆上し
 て、沸騰したバターをウツ
 タラーに振りかけようとす
 ます。とつさにウツタラー

お寺の夏の行事に参加してみませんか

梅花流詠讃歌 毎週土曜日 午後1時半-3時半
 ふるくから日本人が親しんできた御
 詠歌。どこか懐かしい曲調を心をこ
 めてお唱えします。初めての方には
 法具をお貸しいたします。

婦人会 毎週火曜日 午前9時半-11時半
 女性限定。毎週お寺に集まっておしゃ
 べりしながら裁縫したり、料理を習っ
 たりしています。

写経会 毎月第2日曜日 午後3時-4時
 丁寧に文字を書く。ただそれだけなの
 に不思議と心が落ち着きます。少人数
 ですのでお気軽にお越しください。
 ※8月はお盆期間のためお休みです。

坐禅会 毎月第3日曜日 午後4時-5時
 最近よく耳にする「めい想」とか「マ
 インドフルネス」とかいうものの原点
 です。静寂の中で、自分に向き合います。
 ※8月はお盆期間のためお休みです。

ピラティス～ラ・テラピラティス～
 体のコア(体幹)を鍛える運動です。最近、
 運動不足気味な方、どうですか？

昼の会 am10:30-11:30 7/21(金), 9/1(金)
 夜の会 pm6:30-7:30 8/4(金), 9/15(金)
 参加費 1,000円(回数券もあります)
 ※行事の詳細はホームページもご覧ください。

ラジオ番組「曹洞宗の時間」

曹洞宗僧侶の法話をラジオで聞くことができます!
 毎週土曜日・朝6時15分から6時19分
 HBCラジオで放送中



赤に黄色に白に紫。初夏を彩る広徳寺の花々。
 心が広がるような青空と繁茂する緑樹が
 私の心をまっさらにしてくれるようです。

お寺参りとは何ですか。

「お寺参り」とは、仏教行事に合わせて行われる法要です。

広徳寺では年四回。春秋のお彼岸と、お盆、さらにお釈迦様がおさとりをひらかれたことにちなんだ成道会（じょうどうえ）が行われています。

季節でいうと、雪が溶けて春、お盆の夏、肌寒くなってきた初秋と初雪が舞い始める晩秋。北斗市近郊のご縁あるお坊さん方に来ていただき、だいたい二、三十名でお釈迦様に対する礼拝と、皆様のご先祖供養を行います。

遠行（ようぎょう）、この辺りでは「回り行」と言われますが、読経しながら本堂内をたくさんのお坊さんが歩く姿は圧巻です。

どのような服装がいいのですか。

お参りには正装でなくとも、整った身なりでいらしてください。その際には、お数珠と志納金を忘れずに。

志納金とは何ですか。

志納金（しのうきん）とは、法要に際してお寺に納めるもの。昔から「お施餓鬼（おせがき）」とも呼ばれています。お釈迦様へのお布施、ご先祖供養の供養金とお考えください。御志納くださった方には、法要中に家門名を読み上げご供養いたします。



どのくらい包めばよいのですか。

お布施（ふせ）と同じで、志納金も決まったものではありません。人によってさまざまですが、だいたい、ご命日にご自宅のお仏壇にお参りする際のお布施と同じようにお包みする方が多いようです。お包みする袋には、「志納金」あるいは「おせがき」と書いた上で、供養する「家門名」とお施主様のお名前をお書き下さい。

梅花の全国大会に行きました。

梅花流創立六十五周年記念奉讃大会に、広徳寺梅花講からも六名が参加させて頂きました。今大会では、大本山永平寺様におきまして「大本山永平寺第一番御詠歌 溪声」を献詠致しました。唐門（禅師様だけが通りになされる特別な門ですが、今大会に際し特別に開門して下さいました）を通り、山門、大庫院、大光明蔵から本堂へ。二列になって歩いて行きました。「峰の色 溪の響きもみなながら」が釈迦牟尼の「声と姿と」この歌は、大本山永平寺の御開山である道元禅師様がお詠みになられたお歌であります。

翌日、サンドーム福井にて日本全国はもとより海外からの参加もありましたが、中でも驚いたのは九八歳でハワイから参加された方がいらつしやったことでした。開会式では、講員物故者、阪神・淡路大震災二十三回忌、東日本大震災七回忌、熊本地震一周忌の追悼法要が厳修され「追善供養御和讃」を奉詠致しました。また、記念式典では「慶祝御和讃」を奉詠致しました。第三部清興では、南こうせつさんが作詞作曲された「澄みわたる空」が新曲として発表されました。鈴鉦を使わない讃歌で、いつか広徳寺梅花講でもお寺参りで歌ってみたいと思っております。このような記念すべき大会に参加できたこと、心から感謝致します。そして、広徳寺梅花講の発展のために努めてまいりたいと思います。

広徳寺寺族 高橋佳子



▶「サンドーム福井」での梅花流詠歌全国大会の様子。



▶普段は入ることのできない大本山の唐門から参拝しました。



▶常に開かれている永平寺の山門。



▶亡き大切な人のため、ご先祖様のためのお寺参りです。

お寺の庭から

今年も、早七月になりました。お正月にお雑煮を頂いて、あつという間に今を迎えたような感じ、で、「光陰矢のごとし」という言葉がつくづく重く感ぜられる今日この頃です。

ある学説によると、我々の時の長さの感じ方は、年齢に反比例するということです。つまり、十歳の時に過ごした一年間の長さの感覚は、六十歳を迎えると六倍の早さで、たった二か月で一年間と感ぜられるようになるということです。無理ありません。一見仕方の無いことなのかなと思ってしまう。

でも逆発想で、今一度自分が十代のころを思い出して生活すれば良いのではと気づきました。あのころは、見るもの聞くものすべてが興味の対象で、時間の過ぎるのも忘れて没頭したものです。1日がとても長かったように感じます。

心機一転、新しいものを苦にせずには挑戦し、そしてもっともつと行動的に過ごせば、同じ時間を2倍3倍に使うことが出来るのではと、今さらながら、その思いが頭の中を駆け巡っている昨今です。

(住職)

『ゾウの時間 ネズミの時間』

本川達雄 / 著
中央公論社 1992年
734円

